



迦陵園だより

平成 27 年 7 月 発 行
 社会福祉法人 迦陵園
 (児童養護施設)
 〒606-0802
 京都市左京区下鴨宮崎町 109
 TEL (075)701-0250
 発行人 松浦 弘 和
 編 集 迦陵園 編集部

迦陵園 基本方針

—— 養育目標 ——

◎子どもの命と人権を守る。

- 人間性豊かな子を育てる。
- 心身共にたくましい子を育てる。
- 健全な社会人として生きていけるような子を育てる。

適職探索から始まった心の交流

京都中小企業家同友会 ソーシャルインクルージョン委員会 社会的養護部門長 前川 順

様々な事情を抱え児童養護施設でくらす子供たち。彼らは 18 歳、高校卒業時に行政の保護を離れ自立しなければならない。自立ありきの焦った就職は早期離職に直結し、離職後はほとんどが正規就労できずにいるということを知り、同じ地域社会に生きるものとして何かお手伝いできないかということで、迦陵園さんに 1 年半前から通い出し、子供たちとの懇談を重ね昨春から京都中小企業家同友会会員企業での就労体験実習の受け入れを始めました。

これは一企業に「一人だけ」一定期間実習生として受け入れるものです。学校が行う体験は複数の生徒が団体で企業や商店で実習を行います。当然のことながら学校でも施設でも集団が集団を見ることになります。しかし同友会の実習は前述のように一人に集中します。このことの副産物はあとで述べさせていただきます。

同友会会員の中には養育里親の経験者も在籍し、またその会員の縁で京都府立大学公共政策学部の津崎哲雄教授(当時)が児童養護施設と同友会の取り組みを 2 年間学生と共に研究してくださいました。

NPO 法人等福祉の専門分野の団体が社会的養護のもとにくらし、そして施設や里親家庭を離れる若者をサポートする例はいくつか存在していましたが、福祉において、教育において、心理学において、すべてに門外漢の単なる中小企業の経営者の集まりがこのような活動を行った例が我が国にはなかったということが研究対象になった所以です。

研究の成果発表は一昨年、昨年ともに 10 月に行われ、その結果として新聞社や NHK に取り上げられるまでになりました。特に NHK 京都放送局が制作した『NEXT 未来のために』は当事者の目から見ても課題と希望を見事に描いた番組で、津崎哲雄教授も我が国においての画期的な番組であると絶賛されていました。

ここで前に触れた副産物について述べたいと思います。なぜ「適職探索」なのか・・・就職した会社でなにか躓きがあるとすぐに辞めてしまう、長続きしない、1 年も続かない・・・これは自分に適した職業に就いていないのではないか、中高生の間に様々な職業に触れて自分の好きな業種を見つけることを目的にした適職探索支援を行うことが離職を防ぐことになる。

当初は「適職探索」で早期離職を防げるものだと高を括っていました。しかし里親経験のある会員の一言「心のよりどころが無いと憧れの業種でもすぐに辞めるものです」が現実となって突き刺さってきました。「適職探索」だけでは足りない、私たち同友会の行動に「心を伴う」ことがなによりも大切だということは一人の離職が教えてくれたのです。

「時間があったら施設に行く」から「時間を作って施設に行く」に変わり、いまは「あの子のことが気になるから施設に行く」になっています。福祉や教育の専門家ではない私たちですが、自身の仕事については小さい企業でも誇りをもって語れます。そして職業観にとどまらず人生についても語り合います。「適職探索」がいつの間にか自然な形で「適人探索」になってきました。まさに心と心が触れ合う交流です。

実習を終えた子供たちのなかには顔つきが大変に明るくなり前進する子供もいれば、3 歩進んで 2 歩、3 歩と後退する子供もいます。しかし、後退することはあっても一度は進み出た事実は彼らの心に残ることでしょう。『やればできる』ことは体現したわけですからいつかは効果となって表れることを信じています。

迦陵園さんでは今春 3 人が高校を卒業し就職しました。5 月には新社会人となった若者たちを囲んでの夕食会も開催いたしました。施設での懇談や実習はこれからも永く続く交流の序章に過ぎません。永遠に彼らの勝手連ではありますが応援団のつもりでいます。彼らが配偶者を得、その子供たちも含めた大人数での夕食会を開催することは私たち同友会会員の夢です。この夢が実現する日はそんなに遠くないことでしょう。子供たちに夢や希望を持ってもらおうと始めた活動ですが、私たちに夢を与えてくれるのは実は子供たちであることがよくわかりました。

すべての出会いに感謝をしています。



N H K で迦陵園が全国放映されました

6 月 11 日、AM0:10 に NHK の番組『NEXT 未来のために』で「おっちゃん君らの未来をあきらめへん」というタイトルで迦陵園の子どもたちの様子が全国放送されました。

迦陵園では子どもたちにさまざまな職業体験をしてもらったり、働くことの意味や人とのつながりを感じてもらおうという取り組みを、中小企業の経営者で組織されている同友会の協力で行っており、今回この取り組みを中心に放送されました。

この取り組み自体が画期的なものですが、さらに画期的なことは児童養護施設の子どもの顔がモザイクなしで放映されたことです。それは番組の中でもありましたが、ただ施設で生活しているだけの子どもたちには何の落ち度もなく、どうして顔を隠さないといけないのかという声が子どもたちからあがったことで実現しました。

放送後は子どもたちの顔を放映したことについて肯定的な意見や、感動した等の多くの反響がありました。

また、関係者や支援者様には事前に番組の放送案内を送付させていただきましたが、配送業者の手違いにより、一部の方に放送後に案内が届くという事態になりましたことをお詫び申し上げます。その為、希望される方には番組 DVD を送付させていただきますのでご連絡下さい。

大文字山登山



保育士 名越 育未

5 月 2 日幼児 6 名小学 1 年生 2 人で初の登山に行きました。

当日は、普段の行いのおかげか晴天でした。職員の心配をよそに良いペースで登っていく子どもたち。

山頂に着くと景色は最高。ですが子どもたちはそんなことよりも、お弁当が気になって仕方ありません。塩のきいたおにぎりを頬張る子どもたちの顔は最高でした。良い景色をバックにみんな

で集合写真をパシャリ。

下山途中でトイレラッシュがあったり、盛大に転んでしまう子どもがいたりバタバタしました。子どもたちの、のびのびした表情をみるとほっこりした気分になりました。来年はもう少し険しい山に挑戦出来たらいいなあと思わせる頑張り屋さんの幼児さんでした。

愛宕山登山



児童指導員 川邊 直樹

5 月 3 日に愛宕山に登山に行きました。小学 3 年生から高校生までそして職員と幅の広いメンバーでした。

当日は天気が良く雨も降ることもなくまさに登山日和でした。愛宕山は 1000 メートル近くあり簡単そうにも思えますが普段から登山をしていない子どもたちは直ぐに疲れを見せていました。そんな中、途中でしんどくなってリタイアする子どもがいるかもしれないということがありましたが、休憩を何回も取り、子どもたちと励まし合いながら無事に全員山頂まで完登することが出来ました。

私は疲れていた子どもを見てこれ以上登るのは無理かなと思いましたが全員がしっかり登りきることが出来たこと、そしてまた登山に行きたいと言ってくれたことが嬉しくて嬉しくて感動しました。来年も登山に行かねばと思いました。

玉ねぎ収穫

児童指導員 竹内 萌



5月30日、今年も「さくらロータリークラブ」さんからご招待頂き、玉ねぎ収穫に行ってきました。

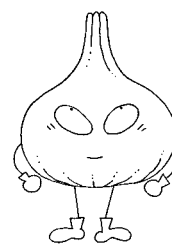
今回は幼児4名を連れて嵯峨へ！

お天気もよく、とても暑い日でしたが、自然の中にいる子どもたちはやはり目の輝きが違います。カエルを追いかけて走り回り、てんとう虫を捕まえて喜ぶ姿に職員共々癒される時間となりました。

もちろん玉ねぎもしっかり収穫し、大きな玉ねぎを引っこ

抜いては「見て！」と笑う子どもたちに、こちらまで嬉しくなります。最後にはたくさんの玉ねぎを頂いて帰りました。

この日の玉ねぎの香りは忘れられないものになったことと思います。ありがとうございました。



静原田植え招待



児童指導員 木村 剛士

昨年よりお世話になっている NPO 法人スモールファーマーズ様の米作り事業の田植えに参加させてもらいました。自分達で植えて刈った米を食べる喜びを子どもたちに知って欲しいというスモールファーマーズの皆様の思いが毎年ひしひしと伝わってきます。

この日の田植えは幼児さんから高校生までが協力しあって植えており、みんな笑顔が絶えませんでした。子ども同士の関わりを見て大人も自然と笑顔がこぼれていました。田植えが終わって近くの用水路で土汚れを落とす時には、水の冷たさと豊かな自然に、初夏の訪れを感じる事が出来ました。

秋の豊作を願い、またこのような素敵な体験を提供して下さった関係者の方々に感謝の気持ちで一杯です。

FROM KITCHEN

主任調理師 北村 理恵



5月の小学校の行事で遠足がありました。そして「キャラ弁作って！」と1か月ぐらいい前からまたもリクエスト！（昨年秋の遠足・小学生からのリクエストで初挑戦しました）

2週間ぐらいい前からは「どこまで出来ている？」

それからは調理場に顔を出して進行具合をチェック。絵を下書きしパーツを作り、当日朝食担当の先生が完成させてくれました！子どもたちも喜んでくれたみたいで安心しました。

他にも日頃から子どもたちからのリクエストメニューを貰っています。長芋汁、納豆焼き飯、クリームコロッケ、ラーメン、パスタなどなど。今回はその中からフレンチトースト、納豆トーストの作り方をご紹介します。

ー レシピ紹介 ー

フレンチトースト

- 食パン 2枚
- ☆砂糖 大1
- ☆牛乳 約100cc
- ☆卵 1個
- バター 適量
- ハチミツ 適量

1. 食パンを4分の1にカットして☆の卵液に浸す。
2. フライパンを温めバターを気持ち多めに入れ、中弱くらいの火加減で裏表焼いたら出来上がり。ハチミツなど好みのソースをかけて下さい。



納豆トースト

- 食パン 1枚
- ☆納豆 1パック
- ☆マヨネーズ 小さじ2
- ☆きざみのり 適量
- ナチュラルチーズ（とけるチーズ） 適量

1. 食パンにマーガリンを塗ります。
2. ☆を混ぜ1.の食パンに乗せて、その上からチーズをのせます。（納豆に付いているタレも入れる）
3. トースター、オーブンでチーズがとろけるまで焼き完成です。

ケアワーカーからのひとこと

迦陵園で得られたもの

主任児童指導員 松本 悟史

以前この迦陵園だよりで、迦陵園がどのように変わってきたのかという話を書かせていただきました。それから数年が経過し、再度原稿の依頼を受けました。

今回皆様に自分は何を伝えればよいのだろうと考えていました。その中で、自分自身この園で働いていてとても大切だなと感じ、得られたことを今回は書きたいと思いました。

まず今、仕事をしていて一番嬉しいなど感じられるのは、子どもたちの純粋な笑顔を見られた時です。子どもたちの純粋な笑顔を見る為には、そこまでに本当に長い道のりがあります。子どもたちは、園に来るまでの家庭環境の中で、とてつもなく大きな悩みを抱えてきます。その悩みがあることで、大人を信用できないというところから始まります。子どもたちにとって一番信用したい相手である親と離れて暮らすことで、本当は一番気持ちをぶつけたい相手がそばにいないというこの環境の中で、自分を表現するというのはとても勇気のいることであり、怖い事だと思います。そんな中で、表現するので、言葉遣いが悪くなったり、乱暴になったりすることもあります。正直そういう子どもたちと向き合っていると、精神的につらくなることもありますし、感情的になることもあります。しかし、最近思うのは、子どもたちの気持ちを受け止めながらも、きちんとこちらの思いも伝えていく。お互いが気持ちと気持ちをぶつけあわなければ、本当の意味でのいい関係というのは築けないということがわかりました。

これを実践するのは本当にむずかしいことでもあります。自分のことに置き換えても、人に心を開くというのはやはり勇気がいることなので、それは子どもたちからすればもっと勇気のいる事だからです。なので、このことが出来てきたと感じられた時の喜びというのは何にも代えられないのです。

後は、人の温かさにふれられることです。子どもたちの中でも、年齢は様々なのですが、大きい子が小さい子に対し、やさしく面倒をみている姿、また地域の方々はじめ、学校の先生方、京都中小企業家同友会の方々子どもたちに対し、本当に一生懸命向き合ってくださいている姿など本当に沢山の人の温かさを感じられる場面があります。日々生活していても、これだけ沢山の温かさに出会えることはあまりないと思います。そういった点でも、この園で働いていて幸せだと感じられることです。

こういった経験をできるようになってきた園を僕は本当に誇りに思います。その陰には松浦施設長が園に来て下さり、様々な大切なことを教えて下さり、動いてくださったおかげだと思っています。勿論その間順風満帆なことばかりではありませんでした。松浦施設長と共に色々な大変なことも乗り越えてきました。そういう気持ちになれたのも、そういうことがあったからこそだと思っています。

僕はある子どもから、「人生は登山」という言葉を教えてもらいました。山に登る大変さがあるからこそ、登った時の景色が素晴らしく、また下りが楽しいのである。今までの苦労があったから、園もこのように変わってきたのだと思います。

これからも、この「人生は登山」という言葉を胸に、子どもたちと一緒に色々な山登りをしていきたいと思っています。

児童養護施設におけるセラピストの仕事の実際 第6回

～児童養護施設の職員のメンタルヘルス～

心理療法士 横山 隆行

児童養護施設に勤める職員の間では、この業界の離職率が他の福祉業界に比べて高いことが知られており、3年以内に約半数の職員が離職するというデータがあります。また、ある県で近年行われた児童養護施設の職員を対象とした健康調査では、7割近くの職員が現在も心や体の病気に苦しんでいるか、またはその予備軍だという結果もあります。これはただごとではありませんし、子どもたちの成長を継続的に支えていくためには大きな障害だと思われます。施設に入所している子どもたちはすでに自分の親との間で分離・喪失体験をしてきており、さらに施設職員との間で分離・喪失体験をしてしまうかもしれないからです。分離・喪失体験が続くと、子どもは傷つかないように大人と距離を取ったり、心を開かないようになっていきます。

では、どうして私達の職場はこのような環境になっているのでしょうか。確かに、子どもたちの生活を実際に支えているケアワーカーは大変な仕事です。迦陵园の場合、勤務は変動時間制の不規則勤務で宿直業務もありますし、子どもの世話は起床から学校の送り出し、学習指導、食事の世話、入浴、就寝まで追われるように仕事が続きます。面倒を見ている子どもたちは、家庭で生活している子どもたちに比べるとはるかに手のかかる子どもたちです。また、児童養護施設は国からの職員の配置基準が定められており、改善されてきているとはいえ、子ども4人に対して職員が1人という状況になっています。こうした現状を考えるとケアワーカーの離職率が高いのも理解できるように思えます。しかし、私にはただそれだけには思えません。

私のような児童養護施設に勤めるセラピストの仕事には、入所している子どものセラピーが主な仕事になりますが、子どもたちの生活を支えているケアワーカーのメンタルケアも重要な

仕事の一つです。私は何人ものケアワーカーに出会ってきましたが、ケアワーカーになる人にはいくつかの共通点があるように感じています。

児童養護施設のケアワーカーという職業に就いている人は、不遇な環境に置かれていた子どもたちのために役に立ちたいと高い志を持ってこの業界に飛び込んできており、大変こころ優しい人が多いように感じます。このような傾向を持った職員が陥りやすいのが、バーンアウト、燃え尽き症候群と言われる状態です。子どもたちをなんとかしてやりたいという強い思いは自己犠牲に取って代われ、自分のプライベートが蔑ろになり、ある時突然、エネルギーが切れたかのように仕事を続けていく気力が無くなってしまおうという状態です。

二つ目の共通点は、ケアワーカー自身が自分の親との間で何らかの葛藤を持っている人が多いように思います。親との間で何の葛藤も持っていない人はいないかもしれませんが、それは程度の問題であり、私にはその程度が強いように感じます。つまり、親との間で葛藤を抱えている子どもたちの世話をしているケアワーカー自身も何らかの葛藤を抱えているという構図になっているのです。このように自分の葛藤に関連する職業を選択するという傾向は、何もケアワーカーだけの特徴ではありません。実は、私のようなセラピストの間でも同じような傾向が指摘されており、私を含めてセラピストを志す人は自分の心に何らかの問題を感じている人が多いということです。つまり、私達のような福祉職員は、自分が持っている葛藤を補償するために、職業を選択している傾向があるように思います。

二つ目の共通点から陥ってしまう職業上の問題は少し複雑でより深刻です。施設に入所している子どもたちは親から十分な養育を受けられなかった子どもたちであり、皆それぞれがトラウマ体験を持っています。子どもたちは辛い気持ちを不登校であったり、自傷行為であったりと様々な行動で表現します。子どもたちから発せられるそのような辛い気持ちは、ケアワーカーが自分では気づかない間に子どもたちから伝染したり、蓄積されていき、自分の持っている葛藤と複雑に絡み合って精神的に不調をきたします。不調の反応はケアワーカーによって様々であり、仕事自体を続けていけない程に思い悩んでしまう人もいれば、身体症状として現れる人、否定的な感情の矛先を子どもや同僚に向けてしまう人もいます。また、子どもたちから伝染した怒りや悲しみ、無力感といった否定的な気持ちは組織全体を蝕み、人間関係の対立を招いたり、管理者と労働者の軋轢を生みがちです。それは子どもたちが不安定になればなる程、強く私達に影響を及ぼし、まるで子どもたちの精神状態と職員の労働環境が密接に絡み合う一つの生命体であるかのように思えます。

このように、児童養護施設に勤務する職員は、葛藤を持った子どもたちの面倒を見ていきながら、個人的にも組織的にも様々な葛藤を感じて仕事をしていかなければならず、こういった環境が児童養護施設の離職率の高さの一因のように私は思います。

そのため、施設で働くセラピストはケアワーカーのメンタルヘルスに注意を払いながら、精神的に疲弊しているように見える職員と個別に話をする時間を持ったり、組織全体が今どのような状況に陥っているのかを俯瞰し、悪い状況であればどのようにすればいいかを考えていく必要があるのです。

幸いなことに、ここ数年の迦陵園では離職する人の割合はかなり低くなっています。それは他の施設に比べてケアワーカーの労働環境が配慮されていることや、年齢層が若い分、横のつながりがあり、比較的仲の良い人間関係が見られます。また、私の仕事が少しでも役に立っている部分があるのかもしれません。

ですが、子どもたちの問題が大きくなれば、このような良い労働環境は容易に危機に瀕する可能性を孕んでいます。そうならないために、私達は子どもの葛藤を受け止めながら、子どもたちから伝染する否定的な気持ちに持ち堪え、さらに自分自身の葛藤に向かい合っていくということが求められるように思います。その作業が上手くできるかどうか、この仕事を長く続けていけるかどうかの分岐点であり、そういった意味でも児童養護施設の職員はタフな仕事なのです。

貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位:円)

資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
流動資産	50,363,181	45,832,403	4,530,778	流動負債	3,163,856	2,721,176	442,680
現金	77,168	62,078	15,090	事業未払金	2,085,391	1,832,894	252,497
当座預金	326,095	236,295	89,800	職員預り金	1,078,465	888,282	190,183
普通預金	42,886,664	42,693,286	193,378	固定負債	22,508,226	21,624,584	883,642
事業未収金	5,185,269	1,957,384	3,227,885	退職給与引当金	22,508,226	21,624,584	883,642
前払金	1,627,985	636,360	991,625	負債の部合計	25,672,082	24,345,760	1,326,322
その他の流動資産	260,000	247,000	13,000				
固定資産	257,539,014	260,789,126	△3,250,112	純 資 産 の 部			
基本財産	91,405,944	94,885,377	△3,479,433	基本 金	54,909,816	54,909,816	0
土地	27,018,800	27,018,800	0	基本 金	54,909,816	54,909,816	0
建物	64,387,144	67,866,577	△3,479,433	国庫補助金等特別積立金	40,498,864	43,790,178	△3,291,314
その他の固定資産	166,133,070	165,903,749	229,321	国庫補助金等特別積立金	40,498,864	43,790,178	△3,291,314
構築物	22,179	29,570	△7,391	その他の積立金	144,960,204	144,960,204	0
車両運搬具	1,700,388	2,336,838	△636,450	人件費積立金	26,423,660	26,423,660	0
器具及び備品	6,289,591	6,728,323	△438,732	施設整備等積立金	118,536,544	118,536,544	0
退職共済預け金	13,160,708	11,848,814	1,311,894	次期繰越活動増減差額	41,861,229	38,615,571	3,245,658
措置施設繰越特定積立資産	144,960,204	144,960,204	0	次期繰越活動増減差額	41,861,229	38,615,571	3,245,658
				(うち当期活動増減差額)	3,245,658	0	3,245,658
				純資産の部合計	282,230,113	282,275,769	△45,656
資産の部合計	307,902,195	306,621,529	1,280,666	負債及び純資産の部合計	307,902,195	306,621,529	1,280,666

脚注 1. 減価償却費の累計額 137,820,662円

監事監査報告書

平成27年5月21日

監査の方法の概要

- 1 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。
- 2 業務監査について、理事会に出席し、理事等から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

以上、平成26年度の社会福祉法人迦陵園の事業報告書、財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動計算書、及び理事の業務執行の状況については、関連する法令及び通知に従った監査の結果、正しく示され適正であると認めます。

以上

監 事

八木保治



監 事

中山 芳雄



ご支援心から感謝申し上げます

金品等・招待行事の方々【平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月】(順不動 敬称略)

新多良子・(株)京都島津・(株)さくら・京都環境事業協同組合 理事長 新川耕市・和田寶鏡・タリーズコーヒー
 ジャパン(株)・共同募金会・下鴨学区社会福祉協議会・島田夫佐枝・(株)エリッリホールディングス 榎野常
 美・ドラングートプロレス・(株)コンセプト・小田一代・同志社女子高等学校宗教部・松山進次郎・京滋お
 部屋探しネット・京都新聞社会福祉事業団・中村麻里子・協同食品(株)・Rプランニング 山内良・京都正和
 空手教室 古坂・吉岡晴子・同志社大学文化情報学部 夢を贈り隊ルフラン♪・ハーモニードリームランド 井上
 千春・森下徹・水路開鑿碑設明板設置委員会・(株)チュチュアンナ・洛和会ヘルスケアシステム・佐々木通江・
 京都タワー(株)・アート&ヘアメイク LAN・(株)朱常分店・(株)おやつカンパニー・一般社団法人日本レコー
 ド・同志社大学社会福祉学科迦陵園子供会・田中正也・(株)プチスポーツ・(株)のぞみ・井上果物店・(株)
 デリバリーサービス 山田博彦・(株)オーグス総研・(株)ワコール・長谷川朋子・高濱禧宏・伏見稲荷大社・
 京都卵業協会・平安神宮・下鴨児童民生員協議会・カゴメ(株)・全国シャンメリー協同組合・中央卸売市場
 青果部・小林三原・京都食肉青年会・牛田有美香・日本鏡餅組合・楽天株式会社 舟木徹・岡勝農園・京都鴨
 川ライオンズクラブ・JRA・京都コンサートホール・京都サンガ FC ホームタウン推進課・山田裕子・さくらロー
 タリークラブ・田中洋子・新木直人・前川順・牧浩史・NHK 京都 北原・NHK 京都 三崎・(株)イングラム・(株)
 みんなではたらく 塩谷隆好・大登建設(株)・古田司法書士事務所・永塩商店・谷口美津子・プロレスリング
 NOAH・島田恵・三上萌子・(株)わかさ生活・松久宗琳佛所・洛南高等学校中学校生徒会・宇高節子・下鴨小
 学校・第二児童相談所 及川・思風都・井上八千代・セルフ岸本屋・(株)シーウイングス 高橋孟・藤田幸子・
 有喜屋 三嶋一枝・野村佃煮・(株)ベック&カンパニー・豆菓子協同組合・地方紙正月連合・高岡優希・(株)
 協栄産業 寺重裕弘・ユニバーサルデザイン映画・京都土地家屋調査士会・庄司春子・オーガスティン・巽信二・
 ダスカジャパン・クアウテモック・和田康作・琢磨会 楊・(株)王将フードサービス・NPO 法人 子どもの村・
 株式会社きたやま南山・中央食鶏・オリックス株式会社・木下サーカス

迦陵園子ども祭りのお知らせ

今年も迦陵園子ども祭りを開催します。迦陵園子ども祭りは地域の方々をはじめ、保護者や関係機関、
 迦陵園を支援していただいているあらゆる方々と一緒に、園庭で子どもたちと食事をしたり、ゲームをし
 たりするお祭りです。子どもたちも楽しみにしておりますので、是非ともお気軽にお越し下さい。また詳
 しい案内は後日郵送させていただきます。

日時 平成 27 年 10 月 3 日(土) 11:00～14:00 迦陵園園庭にて

迦陵園後援会の入会と年会費納入のお願い ～子ども達の応援団になって下さい～

迦陵園後援会は児童養護施設迦陵園の経済的支援、法人への寄付勸奨活動、迦陵園こども祭りやクリスマス会
 など児童のための活動支援を目的とする団体です。迦陵園後援会の趣旨に賛同していただき、何卒ご入会いた
 だきますようお願い申し上げます。年会費の納入や入会を希望される方は同封の振込用紙をお使い下さい。

個人会員 年会費 1 口 2,000 円
 法人会員 年会費 1 口 5,000 円(何口でも結構です)



編集者からの
ひとこと

今号より横山と脇戸が新しく編集担当になりました。分かりやすい情報発信と読みごたえ
 のある迦陵園だよりにしていきたく思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

ホームページ <http://www.karyouen.or.jp/>